



報道関係者各位



会社名 株式会社 クレスコ
 代表者名 代表取締役 社長執行役員 根元 浩幸
 (コード番号：4674 東証第1部)
 問合せ先 広報部長 目瀬 直之
 (TEL 03-5769-8058)

北海道大学 川村秀憲教授と対談 産学連携でのAI・IT人材育成の継続を再確認

株式会社クレスコ(本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員：根元浩幸、以下、当社)は、2021年3月、「次世代を担う人材育成の支援およびAI(人工知能)技術に関する研究の促進」を目的に、北海道大学に寄付を行いました。本寄附に対し、同大大学院情報科学研究院から感謝状を拝受したことを契機として、6月22日、同研究院の川村秀憲教授と当社社長根元による、『AI・IT人材育成』をテーマとする対談を開催致しました。

対談では、AIに代表されるIT業界の技術トレンドの変化により、IT人材に必要なスキルが多様化していること、学校と企業が連携し補完し合うことが、スキルの育成に重要な要素となること、また未解決の課題や加速するDX化に対応するためにも、産学連携の強化が重要であることを確認しました。

『クレスコ』は「成長」を意味するラテン語であり、この社名を体現する取組みとして、そしてESGの取組みの一環として、当社は、社内外のIT人材の教育・育成を積極的に進めており、さらなる充実を目指して参ります。



■対談の経緯

当社は、「次世代の人材育成の支援およびAI(人工知能)技術に関する研究の促進」を目的として、2021年3月、北海道大学様に1億円を寄付。6月22日(火)に同大大学院情報科学研究院 長谷山美紀研究院長を表敬訪問し、本取り組みに対する感謝状をいただきました。

同日、「産学連携でのAI・IT人材の育成」をテーマに、同大大学院の川村教授と当社代表根元による対談を実施いたしました。

■対談概要

1. 実施概要

日程：2021年6月22日(火)

場所：北海道大学キャンパス内

2. 対談テーマ ※対談内容の詳細は2ページ以降をご確認ください。

「産学連携での、次世代を担うAI・IT人材育成の展望」

- (1) AI・IT人材不足の現状や課題
- (2) 産学連携によるAI・IT人材育成の必要性
- (3) 次代のAI・IT人材に必要な力
- (4) 今後の展望

■ 対談者紹介

北海道大学 大学院情報科学研究院 情報理工学部門 複合情報工学分野 調和系工学研究室 教授 川村 秀憲氏

2000年3月北海道大学大学院工学研究科システム情報工学専攻博士後期課程期間短縮修了。同年4月同大学助手。06年同大学准教授、16年同大学教授となり現在に至る。99年～00年、日本学術振興会DC特別研究員。07年～08年、日本学術振興会海外特別研究員、ミシガン大学客員研究員。人工知能、マルチエージェントシステム、複雑系工学、観光情報学の研究に従事、人工知能やマルチエージェントに関する発表論文多数。情報処理学会、人工知能学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、観光情報学会などの会員。観光情報学会理事。株式会社調和技研取締役。人工知能学会編集委員会委員。



株式会社クレスコ 代表取締役 社長執行役員 根元 浩幸

北海道出身。北海道大学大学院卒業後、1984年朝日ビジネスコンサルタント入社。メディアリサーチを経て、88年クレスコ入社。98年オープンシステム事業部システム技術部長、02年フィナンシャルソリューション事業部長、06年取締役ソリューション本部副部長、08年常務取締役ソリューション本部長を歴任し、14年代表取締役社長に就任。17年より現職。



■ 対談内容要約

(1) AI・IT人材不足の現状や課題

- ・(川村)「課題解決できる人材」の育成が必要。大学で教育したことは、必ずしも企業の現場で役に立つとは限らない。AIブーム、DX化で、AI導入を検討する企業や団体は増えてきた。その中で求められることは、現場の課題を理解し、課題を踏まえてシステムや社会をデザインできること。デザイン思考の育成には、学術的な学びだけでは限界がある。
- ・(根元)「高度な技術力を持つ人材」「企画できる人材」が不足している。AIも含め、データ活用など、10年間でIT業界のトレンドは劇的に変化した。トレンド技術を理解できる「高度な技術力」を持つ人材や、技術の使い方を提案できる「企画力」のある人材は常に不足している。

(2) 産学連携によるAI・IT人材育成の必要性

- ・(川村) 企業と連携することで、学生に「リアルな課題解決」を経験させることができる。学校での研究は、オープンデータを用いることが多く、オリジナリティを出すのは難しい。企業と組むことで、「現場のデータ」が活用できる。また、企業の課題を理解し、その解決に挑戦する経験を通じて、デザイン思考がつくと考えている。
- ・(根元) 学校との共同研究は、「高度な技術力」の育成になる。企業は、既存の業務もある中で、スピーディーに高度な技術力を得ることは難しい。研究者からの知見やアドバイスを得ることができれば、社員の技術力が高まる。技術力が高まれば、顧客への提案時にも、より良いコミュニケーションができるようになると思う。

(3) 次代のAI・IT人材に必要な力

- ・(川村) 抽象的な物事・課題を整理する力が必要になる。AIの活用が進んだ先で、「人」に求められることは、抽象度が高い環境下で物事を考え、整理できる人材。求められる要素の変化に合わせて、学校も変化しなければならない。学校における「画一的な基礎教育」と、研究などの「答えのない高度教育」の比重は変わってくるのではないかと。
- ・(根元) 当然、正確性や品質など、今までに求められてきたスキルを持つ人材も必要。高度な技術力を持つスペシャリスト人材も含めて、利害関係を調整しながら、システムを作り上げるマネージャーも、開発プロジェクトを推進する上では重要になる。

(次頁へ)

(4) 今後の展望

- (川村) 北海道大学大学院情報科学研究院調和系工学研究室としては、さらに企業と連携し、未解決の課題を一緒に考えていく。その中で、より企業に貢献できる人材を育成していく。また、博士号取得者を増やすことも考えていきたい。博士号を取って、そのスキルをスペシャリティとして企業で活躍する人材が増えると、個人と企業、両方にメリットがあるのでは。社会人の学び直しなども含めて、産学連携での育成を加速させたい。
- (根元) 新型コロナウイルスを通して、日本のIT化が遅れていることは明確になった。その中で、DXは注目度が益々上がっている。クレスコとしては、川村教授との連携を継続して行うだけでなく、視野を広げるためにも、他の様々な機関との連携を今後も模索していく。AIに限らず、共同研究や学校への講義提供などを通じて、技術を世界に広めることも継続する。社員に対しても、新しい技術やアイデアを試す場を用意し、その場を通じて成長を促す。

【本リリースに関するお問い合わせ】

株式会社クレスコ

広報部 目瀬、榎本

TEL:03-5769-8058

E-mail: pr@cresco.co.jp